石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ
https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

経営・李ゼミ

東松島産海苔使用「のりうらら」開発

特産品をブランド化

試食会で商品の特徴を紹介するゼミ生たち＝11月26日、東松島市

経営学部の李東勲ゼミの学生たちが、宮城県東松島市の海苔養殖業者などと協力して、同市の特産品である海苔を使った新商品を開発した。「のりうらら」と名付け、11月26日から販売を開始した。

流通やマーケティングについて実践的に学ぶ李ゼミ。国内外に東松島産海苔の魅力を広めることを目的に、2019年春から佐藤蓮也さん（福島県相馬東高）ら現4年次生を中心に商品開発に取り組んできた。開発にあたってゼミ生は、海苔に含まれる栄養素（葉酸、ビタミン、食物繊維）に着目。同じく美容効果が期待できる梅を加えて、食べやすく簡単に美容成分を摂取できる梅海苔ペーストに仕上げた。

コロナ禍の影響も受けたが、地道に活動を続け、ようやく完成にこぎ着けた。ゼミ長の菊地周平さん（3年次・NHK学園高）は、「試行錯誤を繰り返し、自信作が完成した。プロジェクトを通じて多くのことを学ぶことができた」と振り返る。

菅原悠さん（2年次・宮城県岩ケ崎高）は、「更なる新商品の開発も進めている。イベントなども開催し、東松島産海苔のブランド化促進に努めたい」と意気込みを語った。

理工・鈴木准教授　ナイト水族館に協力

深海魚の魅力を伝える

深海魚の生態を解説する鈴木准教授（左）

理工学部の鈴木英勝准教授が、仙台うみの杜水族館（宮城県仙台市）で11月6日に開催されたイベント「深海ナイト水族館」の深海魚展示ブースで、来場者に深海魚の魅力を伝えた。

当日は説明パネルのほか、石巻魚市場に水揚げされた深海魚の展示もあり、多くの人が会場を訪れた。普段目にすることのない深海魚への関心は高く、冷凍展示されたイトヒキダラやコノホシギンザメに触れる小学生や、深海魚の生態について鈴木准教授に熱心に質問する人の姿も見られた。

鈴木准教授は、「多くの深海魚が水揚げされる石巻は研究フィールドとして面白い。これらの有効利用を探る研究を通じて、地域の活性化につなげたい」と話した。

人間教育学科

石巻圏域の小・幼・保でインターンシップ実習

園児の運動をサポート＝石巻市河北幼稚園

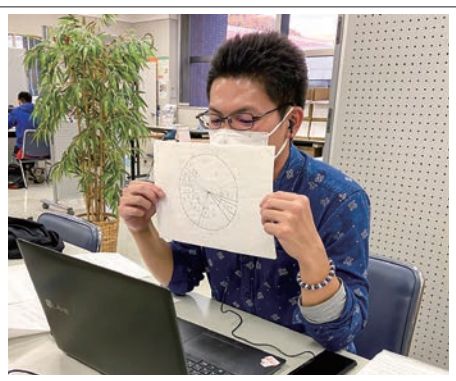
人間学部人間教育学科にある小学校、幼稚園、保育園でインターンシップ実習を行った。

同実習は人間教育学科の「専門教養演習」の一環。参加した37人は13班に分かれ、実際の保育・教職の現場を体験した。教員や子どもたちとのコミュニケーションを通じて実践への理解を深めるとともに、学校や保育所が組織的に営まれていることなどを学んだ。

小学校教員志望の玉井響さん（青森県三沢高）は「本当に楽しく、貴重な経験ができた。教員になったら、昼休みも放課後もできるだけ子どもたちと過ごしたい」と話す。学生たちはそれぞれ充実した時間を過ごし、夢に向けた思いを一層強めていた。

先輩たちによる就職活動体験談

内定獲得へノウハウ語る



自作の資料を用意してさまざまなノウハウを伝える4年次生

就職活動を間近に控えた3年次生向けの進路ガイダンス「先輩（4年次生内定者）たちによる就職活動体験談」が11月18日、オンラインで行われた。

企業・団体から内定を得た4年次生10人が、自らの就職活動体験に基づいた成功の秘訣、企業選びのポイントや失敗談、公務員試験合格のノウハウなどを紹介。参加者からの質問にも親身になって答えた。

大沼賢さん（経営4・埼玉県春日部共栄高）は、「周囲への感謝や謙虚さを持って行動することで必ず縁のある企業に出会える」とアドバイス。小笠原健悟さん（理工4・青森県青森南高）はコロナ禍で苦労した経験を振り返りつつ、「先が予測しにくいなかでも諦めず、自分が行ってきたことに自信を持って就職活動に臨んでほしい」とエールを送った。

参加した3年次生は「早め早めの行動が大事であり、進路支援室などのサポートをフル活用したい」と感想を述べた。

理工・阿部教授

新著を刊行

「新刊（左）、既刊で理解を深めてほしい」と阿部教授

理工学部情報電子工学科の阿部正英教授の新刊『MATLAB対応　ディジタル信号処理（第2版）』（森北出版）が刊行された。

デジタル信号処理の基礎理論に関するテキストで、豊富な例題や図例を用いて、デジタルフィルタリングや離散フーリエ変換を中心に分かりやすく解説。MATLABによるプログラミング例も多数収録し、実際に動かして確認することで理解を深めることができる。

興味のある学生は既刊『Python対応　ディジタル信号処理』と併せて読んでほしい。

52台を整備・点検

理工学部機械工学科自動車工学コースの学生14人が、カーシェアリングに使用されている車両52台のタイヤ交換や点検作業を行った＝写真。

学生たちは、一般社団法人日本カーシェアリング協会が実施した「2021年秋の学生整備プロジェクト」（11月10～12日、本学自動車工学センター）に協力した。

10日は3年次生10人が16台、11、12日は4年次生4人が36台を担当し、佐藤匡俊、千葉満両講師の指導のもと、真剣な表情で作業をこなした。

今回が3回目の参加となる平萌絵香さん（3年次・岩手県花巻農業高）は「大学では実習の機会が多く、技術の向上に役立つ。前回よりもスムーズに作業ができた」と手応えを感じている。

自動車関連企業への内定を得ている須藤舜司さん（4年次・宮城県仙台城南高）は「学生時代に、ユーザーの声を聞きながら整備できる機会は本当に貴重。社会貢献につながる体験ができる点は本学の魅力の一つ」と話した。

研究室探訪

運動の教育的価値を発信

人間学部人間教育学科　髙橋 功祐 助教
KOUSUKE TAKAHASHI

運動について講義する髙橋助教

現在、子どもの体力・運動能力はピーク時と比べて低い水準にあります。外出自粛などの影響で更なる低下が懸念されるなか、子ども一人一人が運動に価値を見いだし、意欲的に取り組むことができる運動教育について研究しています。また、健康習慣の確立や体力の保持増進、豊かな人間形成につながる運動の教育的価値を広く発信していくために、さまざまなフィールドに出向いて実践的な活動をしています。

生涯スポーツ論、地域スポーツ論、健康科学と身体運動、体育などの科目を担当し、実技を伴う授業では、学生個々のレベルに合わせた指導を心がけています。研究室では、子どもの体力・運動能力を測定・評価し、改善に向けた効果的な運動あそびプログラムを考案。これまでの研究で、幼少期の運動習慣や運動に対する意識は中高年まで続いていることが明らかになっており、運動に親しむ子どもを育てることで健康寿命の延伸につながると考えています。

学生の皆さんには多様な経験を積み、懐の深い人間になってほしいと願っています。私自身、学生時代にさまざまなことに挑戦し、その経験が今の自分を作っています。大学の4年間は貴重な時間です。選り好みをせず、あらゆることに挑戦する気持ちを持って毎日を過ごしてください。